

試験(入試・学年末試験・3大検定)直前の効果の上がる勉強方法を考える

ー「長時間自己学習」と「何回も学び直し、スミからスミまで理解・定着」のすすめー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 年が明けて2022年に入ると、いよいよ1年間の総まとめである「試験(入試・学年末試験・3大検定)」の本番です。試験直前の「効果の上がる勉強方法」は何ですか。

A 1つ目は、「長時間自己学習」です。

(1)3学期に行われる「入試」「学年末試験」「3大検定(英検、漢検、数学・算数検定)」は1年間の総まとめ(入試は3年間の総まとめ)です。学ばなければならないことが「山」ほどありますので、「勉強時間の長さ」が勝負となります。



(2)学校の授業のない日は、「1日4教科12時間主義」をおすすめします。

午前中は4時間かけて2教科を、午後は4時間かけて1教科を、夜は4時間かけて1教科をひたすら「黙々」と学び続ける「黙学(もくがく)」をおすすめします。

(3)学校の授業のある日は、「1日4教科8時間主義」をおすすめします。朝起きたら1教科を2時間、夕方は1教科を2時間、夜は2教科を4時間、合計で8時間ひたすら「黙々」と学び続ける「黙学」をおすすめします。

(4)開倫塾では、先生方の勤務時間内であれば午後から夜10時30分(東京は10時)まで、空いている机を用いて自学自習を奨励しています。すべての学年の皆様は大いにご活用ください。

Q 2つ目は何ですか。

A 「何回も学び直し、スミからスミまで理解・定着させること」に尽きます。

(1)最大のポイントは、同じ教科書・教材・問題集・一度解いた問題(過去問・模試の問題・予想問題)を、何回も、何十回も、繰り返し学び直すことです。



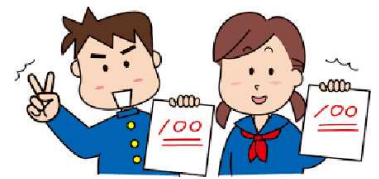
(2)学校の教科書や開倫塾のテキスト・まとめ教材・問題集などを1回しかやらない人は、一度「うん、なるほど」とよくわかって「理解」できても、時間がたつと記憶として残る量が少なくなってしまうため、テストでよい点数を取るのが難しいのが普通です。

(3)学校の教科書や開倫塾のテキスト・まとめ教材・問題集、過去問・模試の問題・予想問題を何回も何十回もやり直すと、「記憶の痕跡(こんせき)」が残り、高得点に結びつきます。

(4)「試験勉強」は「勉強時間の長さ」と「回数の多さ」で決まります。そう考えて、繰り返し学び続けてください。

Q 「スミからスミまで理解・定着させる」とはどういうことですか。なぜ「スミからスミまで」なのですか。

A (1) テストの出題範囲について一部しか勉強していないと、満点は取れないからです。テストでよい点数を取るには、出題範囲について「スミからスミまで」学ぶことが大切です。



(2) 「スミからスミまで」学んでも、その内容を「うん、なるほど」と十分に「理解」していなければなりません。

① よくわからない「ことば」や「語句」があったら、「辞書」や参考書などを用いて 1 つ 1 つの意味を調べ、自分なりに納得することが大切です。

* どうしてもわからなければ開倫塾の先生に質問して、わからないことをなくしてください。

② 一度「理解」したことも時間がたつと忘れてしまうことが多いので、「声を出して何回も読む(音読)」ことが大切です。何も見ないで言えるまでにすること(暗唱)も大いにおすすめします。

③ 計算や問題もなぜそのような解答になるかがよく「理解」できたものは、計算や問題を見た瞬間に「パッパッ」と答えが出るまでにしておくことが大切です。



Q 最後に一言どうぞ。

A (1) 勉強は積み重ねですから、以上のような勉強を 12 月から 3 月 31 日までどのくらい熱心に行ったかで、4 月 1 日からの新しい学年、新しい学校での成績が決まります。

(2) ただし、すべての基本は「読解力」です。

① よくわからない「ことば」があったら「気持ちが悪い」と考え、「辞書」を用いて調べ、調べたことを「ノート」に書き写してすべて覚えること。「語彙(ごい)力」を身に着けること。

② 「新聞」を毎日 30 分以上読み、自分で考える力、批判的思考能力を身に着けること。

③ 古典を中心に、じっくり型の「読書」を 1 日 30 分以上行い、思慮深さ、深く考える力、省察(自分を振り返る)力を身に着けること。

* すべては、全教科の基礎となる「読解力」に結びつきます。「辞書・新聞・読書」に親しみ、「学習習慣」とした人で成績上位でない人はいません。

がんばってくださいね。

